

重点施策 7 市民総参加のスポーツと健康教育の振興

【施策方針】

生涯にわたって、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、スポーツ・レクリエーション活動の充実を図り、市民が健康で明るく生活できるよう務めることにより、市の活性化に努める。

【実施状況】

(1) 主な施策・事業

- ① 生涯スポーツの振興
- ② スポーツ活動体制の充実・強化
- ③ スポーツ・レクリエーション施設の整備
- ④ スポーツを通じた青少年の健全育成
- ⑤ 国体準備事業の推進

(2) 施策・事業の実施状況

① 生涯スポーツの振興

都市公園施設（3 施設）及び社会体育施設（7 施設）の利用促進を図ると共に学校施設の開放（14 小学校、6 中学校）を行い、市民へのスポーツ・レクリエーションの場を提供した。

歩け歩け大会（700 名参加）、市民スポーツフェスタ 2013（17 地区公民館・約 1,000 名参加）、クロッケー大会（20 チーム・68 名参加）、市民健康マラソン（753 名参加）・八幡浜駅伝カーニバル（136 チーム・約 680 名参加）の開催など、市民が気軽に参加できるスポーツ大会を開催し、市民へのスポーツ・レクリエーションの機会を提供した。

マウンテンカーニバルで GO!（約 4,000 名参加）、第 12 回大学女子学生ソフトボール大会（13 チーム参加）など全国規模の大会を開催してスポーツ交流人口の増加を図った。

② スポーツ活動体制の充実・強化

スポーツ推進委員会、体育協会などの関係団体と連携し、スポーツの振興を図ると共に、競技団体の充実・強化・育成を図るため助成を行った。

市体育協会では、市のスポーツ振興に大きく寄与・貢献すると認めたものに対し、表彰及びスポーツ活動助成を行い、選手の育成及び健闘を称えた。

③ スポーツ・レクリエーション施設の整備

社会体育施設の保守点検を行い、不良個所の修理を行うことにより、安全で快適なスポーツ・レクリエーション活動の環境整備に努めた。

④ スポーツを通じた青少年の健全育成

スポーツ少年団に対して助成を行い、交流研修会、体験発表会、ソフトボール及びサッカー大会を開催した。また、大会の参加や開催を促進し、競技力の向上に努めた。

また、日本サッカー協会が受託事業として実施した「夢の教室」においては、著名なスポーツ選手が「夢先生」となり、子供たちに夢を持つことや仲間を思いやることの大切さを実体験を通して伝えた（神山小学校、真穴小学校、川之石小学校で実施。）。

⑤ 国体準備事業の推進

平成 29 年に開催される愛媛国体に向け、広く市民に周知を行い、理解を深めてもらうため広報啓発活動を行った。また、八幡浜市での国体競技開催に向けて準備を円滑に進めていくため、八幡浜市国体準備委員会を設立した。施設整備については、施設所管課及び所管係と協議しながら進めている。

【学識経験者意見】

- 生涯にわたって、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことが、市民の健康で明るい生活につながり、市の活性化の一つとなっていると思う。
生涯スポーツの推進のために社会体育施設及び学校施設の開放により、子どもからお年寄りまで幅広いスポーツ人口の増加につながっている。
- 市民の誰もが参加できる「歩け歩け大会・スポーツフェスタ・クロッケー大会・市民健康マラソン・駅伝カーニバル」が盛況で、市民が気軽に参加し、楽しみながら体力づくりと豊かな心を育てる人間形成の面からも評価できる。
今後も継続してほしい。
- 全国規模の「マウンテンカーニバル・大学女子ソフトボール大会」では、市民ボランティアの協力などによる市民参加の大会として大変有意義な大会となっている。特に国際大会に繋がる「マウンテンカーニバル」は子どもたちに大きな夢と希望をもたらしている。
- スポーツ少年団に対しては、子どもたちに夢を持つことや仲間を思いやることの大切さを学ぶ上で、今後もさらに助成をお願いしたい。
- 平成 29 年開催の「えひめ国体」における施設については判然を望みます。また、広く市民に周知を行い理解を深めてもらうとともに、体育協会、体育指導委員会など諸団体、準備委員会との連携を密にし、大会まで進めてほしい。

【自己評価】

- 生涯スポーツの振興のため、社会体育施設及び学校施設の開放を進めているが、とりわけ市街地施設は利用希望が多く、調整を要する場合もあって、要望に応えきれていない部分がある。財政的に新たな施設整備を行う事は困難であるが、小中学校の統廃合によって用途廃止となる体育館、またはグラウンドのうち、利用ニーズが見込まれる場合は社会体育施設に転用し、適時適切な施設営繕を心がけ、運用効率の向上を図る。
- 市民参加型のスポーツイベントについては、マンネリ化に陥らぬよう内容の見直しや工夫を凝らしつつ、継続して事業を実施していく。
- 全国規模のスポーツイベントの開催は、スポーツを通じた青少年の健全育成や地域振興に資するため、その効果が最大限発揮出来るよう改善を図りつつ、継続して事業を実施していく。
- 少子化の影響により、スポーツ少年団活動を取り巻く環境は厳しいものがあるが、スポーツを通じた青少年の健全育成に資するための事業を展開するとともに、活動を下支えするために必要な財政的援助を行う。
- えひめ国体成年男子ソフトボール競技の競技会場となる王子の森グラウンドについては、現在改修を行っているところであるが、成年男子バレーボール及びえひめ大会（全国障害者スポーツ大会）における精神障害者バレーボール競技の会場となる市民スポーツセンターについては、国体開催までに老朽化した体育館の床の張り替えとトイレの洋式化や段差の解消など施設の利便性向上を目的とした修繕を検討しているところである。

えひめ国体・えひめ大会では、一人でも多くの方にいろいろな形で両大会へ参加・協力していただくことにより、市民が感動や夢、希望を分かち合えるよう、市民運動を展開していく。また、会議や視察をとおして関係諸団体との連携も密にし、大会の準備を進める。